

令和 5 年 5 月 31 日現在

機関番号：14303

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01207

研究課題名(和文)「ポスト身体社会」における芸術・文化経験の皮膚感覚についての横断的研究

研究課題名(英文) Cross-Sectional Studies on the Skin Sense of Artistic and Cultural Experiences in the "Post-Body Society"

研究代表者

平芳 幸浩 (Hirayoshi, Yukihiro)

京都工芸繊維大学・デザイン・建築学系・教授

研究者番号：50332193

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,800,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果の公開として国際シンポジウムの開催を予定していたが折りからのコロナ禍の影響により実現が叶わなかったが、年数回の研究会は対面からオンライン形式に変更して継続開催した。また、研究期間中に、京都工芸繊維大学美術工芸資料館にて「肌色って何色？ポスターに見る皮膚表現」展を開催し近代ポスターの人物イメージにおける皮膚表現のあり方について再検討する場を提供した。コロナ禍で調査研究が難航する時期もあったため研究期間を一年延長し、2022年度末に最終成果報告として8名の皮膚感覚についての研究論集を『現代の皮膚感覚をさぐる - 言葉、表象、身体』というタイトルで春風社より刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は現代社会における芸術表現ならびに文化表現を通して皮膚感覚を再検討するもので、研究論文として公表された複数の研究成果は、芸術のみならず文学・映像・漫画・建築といった様々なフィールドにおける視覚優位の常識を覆す新たな視座を提供するものである。さらには、デジタル技術の進展において見過ごされてきた皮膚感覚の直裁性、遍在性、遷移性に着目することで、皮膚感覚の現代的な意味と価値を捉え直す契機となる社会的意義を有するものである。

研究成果の概要(英文)：Although an international symposium was scheduled to be held to publicize the research results, it could not be realized due to the corona disaster, but the research meetings held several times a year were changed from face-to-face to online format and continued to be held. During the research period, the exhibition "What Color is Skin Color? Skin Expression in Posters" exhibition at the Museum and Archives, Kyoto Institute of Technology, during the research period, providing an opportunity to reexamine the nature of skin expression in modern poster images of people. The research period was extended by one year due to the difficulties encountered in conducting research due to the Corona disaster, and at the end of FY2022, a collection of eight researchers' research on skin sensation was published by Shumpusha under the title "Exploring the Modern Skin Sensation: Language, Representation, and the Body."

研究分野：美術史

キーワード：皮膚感覚 芸術 哲学 現代社会

1. 研究開始当初の背景

21世紀の高度科学技術の進展においては、とりわけバイオテクノロジーあるいはAI技術に代表されるように(脳を含めた)身体機能の補填へのベクトルが強くなり、さらには補填から代替(人工の臓器や皮膚)へとその役割が急速に移行しつつあるように思われる。そのような生身の身体を超えた社会を「ポスト身体社会」と名付けることができよう。では、この「ポスト身体社会」において、まだここにある(残存している)私たちの身体はどのように捉え直すことができるのだろうか。本研究では、このような「ポスト身体社会」における人間の「皮膚感覚」に改めて注目する。研究代表者である平芳幸浩は、皮膚が「接触面」としての芸術作品あるいは「表面」としての作品支持体との類似性を有していると考え、現代芸術の表現と皮膚との関係についての研究を行ってきた。その調査研究で判明したことは、1950年代以降に皮膚を直接的な題材として使用する芸術作品が急増すること、そしてその表現のあり方が1990年代あたりから大きく変化することであった。本研究は、そこで得られた知見をもとに、「皮膚感覚」のあり方の再検討へと発展させたものである。稲賀繁美が近代工芸を中心に論じた『接触芸術論：触れあう魂、紡がれる形』(2016年)に代表されるように、視覚優位の芸術論に代わるものとして皮膚接触の持つ創造性が謳われ始めている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、芸術・文化表現において私たちの「皮膚感覚」が今日どのように扱われ、芸術・文化経験において「皮膚感覚」が今後どのような意義と可能性を持ち得るのかを多角的に考察することである。なぜ様々な身体器官の中で「皮膚」を研究の対象とするのか。それは、今日的な「ポスト身体社会」において、我々の感覚器官として最も原初的で最も直接的な「皮膚感覚」、そしてそのような感覚の「トポス(在処)」としての皮膚の重要性はますます大きくなってきているように思われるからである。皮膚感覚によって獲得される様々な印象、つまり「温かみ」や「柔らかさ」や「慈しみ」や「ざわつき」といった感覚は、デジタル技術での置換が困難である。最新の人工皮膚研究では、痛みの再現だけでなく温みの再現も可能になってきたが、温度を感じることと「ぬくもり」を感じることはなお差異が残る。「皮膚感覚」とは、皮膚を通して直接的に取得される感覚かつ数値化が困難なファジーな感覚である。皮膚は、目や耳以上に他者と情報の共有が難しい個別的な受容器官であり、それゆえに「皮膚感覚」はその皮膚の持ち主の「主体性/自己同一性」の確立にとっての基盤でもある。さらに言えば、「皮膚感覚」は自己と他者との「接触」によって初めて生じる感覚である。皮膚は、我々が世界のうちで生きていること、社会との連携を有していること、突き詰めれば「外部があること」を直覚する場なのである。

3. 研究の方法

研究目的を達成するために、本研究では「皮膚感覚」にまつわる人文科学諸領域から研究者を集め、ハイ・アートから大衆文化までを射程に収めた共同研究を実施する。研究目的で挙げた皮膚感覚をめぐる諸実践の具体的な局面を多様に考察すべく、専門や志向を異にする研究分担者を7名選定した。平芳幸浩[研究代表](現代美術・現代デザイン)、池側隆之(映像論)、太田純貴(メディア論・美学芸術学)、高木彬(日本近現代文学)、平芳裕子(ファッション研究・表象文化論)、藤田尚志(哲学)、牧口千夏(メディアアート・現代美術)、若林雅哉(美学・現代視覚文化)である。2019年度から以下のようなテーマを掲げて研究会を開催し考察ならびに意見交換を行う。

1. 荒川修作「建築する身体」における皮膚感覚：芸術および建築を通して人間身体の潜在的可能性の発露と、それによる生命の永続化を希求した荒川修作が謳う「建築する身体」という概念とその実践において「皮膚感覚」が果たす役割と可能性を考察する。[平芳幸浩]
2. フランス近現代思想における身体論および皮膚感覚(触覚)：「星辰にまで届くヴァーチャルな極大身体」を構想したベルクソンから、ヴァレリー、ドゥルーズを経て、ジャック・デリダの『触覚』まで、「皮膚感覚」の今日的で哲学的な射程を検討する。[藤田]
3. 現代文化におけるハプティクス概念の様相と射程：触感や触り心地という皮膚感覚に密接に関わる「ハプティクス」(haptics)概念の歴史的展開・文化的意義や、その皮膚感覚としての可能性を、主にメディア論・感性論的見地から考察する。[太田]
4. 現代ファッションにおける皮膚感覚の変容：現代の衣服は素材開発と技術革新により造形性からテクスチャによる「体感」の追及へと変化してきた。第二の皮膚と言われるファッションが「皮膚感覚」にどのように関わっているのか考察する。[平芳裕子]
5. ヴィデオ・アートにおける身体と皮膚の表象：ピピロッチェ・リストなどの主に女性ヴィデオ・アーティストの作品にみられる血液や皮膚の皺などの生々しいイメージと、デジタル画像の人工的テクスチャとの関係が観者に与える皮膚感覚について考察する。[牧口]
6. 現代文学における「皮膚感覚」表象：1990年代以降の日本文学作品における「皮膚」および「皮膚感覚」表象の変容について、村上春樹作品を中心に考察する。[高木]
7. 時間性と皮膚感覚からみる作品概念の再検討：境界としての皮膚を作品に突き合わせて再検討するとともに、時間を作品に導入することでその外延の変容について考察を加える。[若林]

8. 映像がもたらす記憶と創造の相互作用：VR や AR の技術の発達によって映像を介した触覚的認知についての議論が活発に行われる中、手仕事にまつわる映像の記録及び視聴が、工程の理解や再現に不可欠な皮膚感覚にどのような影響を与え既知と未知の間を架橋するのか、文化伝承や創造性の観点から考察を試みる。[池側]

4 . 研究成果

研究成果の公開として開催を予定していた国際シンポジウムは折りからのコロナ禍の影響により実現が叶わなかった。しかし、年数回の研究会は対面からオンライン形式に変更して継続開催した。また、研究期間中に、京都工芸繊維大学美術工芸資料館にて「肌色って何色？ ポスターに見る皮膚表現」展を開催し近代ポスターの人物イメージにおける皮膚表現のあり方について再検討する場を提供した。渡航禁止や自粛の影響で海外調査へ出向くこともできない中、文献資料調査に重点をシフトさせることで研究を深めていくこととなったが、コロナ禍で調査研究が難航する時期もあったため研究期間を一年延長し、2022 年度末に最終成果報告として研究代表者・研究分担者合計 8 名の皮膚感覚についての研究論稿を以下のような題目で提出した。

[藤田尚志] かゆみの哲学断章 - 哲学的触覚論のゆくえ

[若林雅哉] 皮膚と時間 - 作品の「身体」性格を再考する

[高木彬] 陶器のようにつるりとした背中 - 村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』における皮膚

[平芳裕子] シームレスの美学 - ファッションと皮膚感覚

[太田純貴] プラスチックが蠢く、プラスチックと蠢く - 『寄生獣』における皮膚（感覚）

[牧口千夏] ピピロッティ・リストのビデオ・インスタレーションにおける皮膚感覚

[平芳幸浩] 皮膚感覚としての「建築する身体」 - 荒川修作 + マドリン・ギンズあるいはヘレン・ケラー

[池側隆之] サーフェスとイメージ - 新しい映像創作がもたらす皮膚感覚

なおこの研究成果は、学術論集として『現代の皮膚感覚をさぐる - 言葉、表象、身体』というタイトルで春風社より刊行することで広く公開することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 太田純貴	4. 巻 44
2. 論文標題 『寄生獣』の左手と爪（の不在）をめぐるレトリック	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美術フォーラム21	6. 最初と最後の頁 69-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田純貴	4. 巻 1
2. 論文標題 プラスチックが蠢く、プラスチックと蠢く 『寄生獣』における皮膚（感覚）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代の皮膚感覚をさぐる 言葉、表象、身体	6. 最初と最後の頁 135-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田尚志	4. 巻 26
2. 論文標題 リズムの哲学がベルクソンに負うもの	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 フランス哲学・思想研究	6. 最初と最後の頁 61-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田尚志	4. 巻 3
2. 論文標題 Sublime and Panoramic Vision: Bergson, Kant and Heidegger on Schematism	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Bergsoniana	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田尚志	4. 巻 1
2. 論文標題 かゆみの哲学断章 哲学的触覚論のゆくえ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代の皮膚感覚をさぐる 言葉、表象、身体	6. 最初と最後の頁 13-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木彬	4. 巻 48
2. 論文標題 貝殻・電話・薔薇	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 柴のいほり	6. 最初と最後の頁 36-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木彬	4. 巻 1
2. 論文標題 陶器のようにつくりとした背中 村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』における皮膚	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代の皮膚感覚をさぐる 言葉、表象、身体	6. 最初と最後の頁 83-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 若林雅哉	4. 巻 1
2. 論文標題 皮膚と時間 作品の「身体」性格を再考する	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代の皮膚感覚をさぐる 言葉、表象、身体	6. 最初と最後の頁 55-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平芳裕子	4. 巻 68
2. 論文標題 田中薫と民俗衣服 地理学から衣服学へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 服飾美学	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平芳裕子	4. 巻 1
2. 論文標題 チャネルの近代 ファッションをめぐる装飾の機能	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 交歓するモダン：機能と装飾のポリフォニー	6. 最初と最後の頁 254-258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平芳裕子	4. 巻 1
2. 論文標題 シームレスの美学 ファッションと皮膚感覚	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代の皮膚感覚をさぐる 言葉、表象、身体	6. 最初と最後の頁 109-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池側隆之	4. 巻 68
2. 論文標題 プロセス・コンテンツ・メディアを志向する映像のデザイン	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本デザイン学会研究発表大会概要集	6. 最初と最後の頁 68-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池側隆之	4. 巻 1
2. 論文標題 サーフェスとイメージ 新しい映像創作がもたらす皮膚感覚	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代の皮膚感覚をさぐる 言葉、表象、身体	6. 最初と最後の頁 219-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平芳幸浩	4. 巻 1
2. 論文標題 蜘蛛の巣上のゴースト	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 蜘蛛の巣上の無明 インターネット時代の身心知の刷新にむけて	6. 最初と最後の頁 13-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平芳幸浩	4. 巻 1
2. 論文標題 皮膚感覚としての「建築する身体」 荒川修作+マドリン・ギンズあるいはヘレン・ケラー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代の皮膚感覚をさぐる 言葉、表象、身体	6. 最初と最後の頁 191-218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧口千夏	4. 巻 1
2. 論文標題 ピピロッチェ・リストのビデオ・インスタレーションにおける皮膚感覚	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代の皮膚感覚をさぐる 言葉、表象、身体	6. 最初と最後の頁 165-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田尚志	4. 巻 77
2. 論文標題 知的冒険とは何か 講演会へのイントロダクション	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 九州産業大学国際文化学部紀要	6. 最初と最後の頁 35-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田純貴	4. 巻 1
2. 論文標題 視覚性と触覚性—眼と手の絡み合い	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美学の事典	6. 最初と最後の頁 150-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木彬	4. 巻 81
2. 論文標題 スカイスクレーパーの詩学 北園克衛の建築表象	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 昭和文学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木彬	4. 巻 66
2. 論文標題 稲垣足穂「煌ける城」におけるロード・ダンセイニ受容	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 國文學論叢	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧口千夏	4. 巻 1
2. 論文標題 ピピロッティ・リスト:Your Eye Is My Island展について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『ピピロッティ・リスト:Your Eye Is My Island - あなたの眼はわたしの島 - 』展図録	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平芳裕子	4. 巻 1
2. 論文標題 芸術とファッションの融合ーこれは衣服なのか、芸術なのか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美学の辞典	6. 最初と最後の頁 348-349
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平芳裕子	4. 巻 1
2. 論文標題 近代アメリカ女性に見る針仕事と階級の関わり	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代手芸考	6. 最初と最後の頁 175-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平芳幸浩	4. 巻 6
2. 論文標題 現代美術は記憶とどう関わろうとしているか - デジャヴとジャメヴを手掛かりに -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社藝堂	6. 最初と最後の頁 51-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池側隆之	4. 巻 1
2. 論文標題 創造を担う映像ドキュメンテーション	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『KYOTO Design Lab Yearbook 2018』	6. 最初と最後の頁 90-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧口千夏	4. 巻 1
2. 論文標題 着る人たちのゲーム 登場人物紹介	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ドレス・コード? 着る人たちのゲーム』展図録	6. 最初と最後の頁 25-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田尚志	4. 巻 7
2. 論文標題 家族の脱構築 ヘーゲル、デリダ、パトラーによる『アンチゴネー』読解から出発して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 けいそうビブリオフィル	6. 最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 太田純貴
2. 発表標題 ユッシ・バリッカ『メディア地質学』報告
3. 学会等名 日本メディア学会 第38期第29回研究会
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 表現的自我：分析的アプローチとベルクソンのアプローチの接合
3. 学会等名 PBJ-DI分析系分科会
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 Bergson and Heidegger on Schematism
3. 学会等名 Fukuoka Meeting of the Global Bergsonism Research Project (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 フーリエ的思考と結婚の脱構築 ベルクソン、ドゥルーズを参照しつつ
3. 学会等名 社会思想史学会
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 Deconstruire - Les revies de Retif de la Bretonne
3. 学会等名 Colloque international "Les Revies - de Retif de la Bretonne" (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 平芳裕子
2. 発表標題 田中薫と民俗衣服－地理学から衣服学へ
3. 学会等名 服飾美学会大会
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 平芳裕子
2. 発表標題 距離を克服する－近代アメリカのファッションメディア
3. 学会等名 研究会：ファッションが産業になる：フランス・アメリカ・日本・ソ連・イタリアの過去とインドネシアの現在
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 ベルクソンとリズムの問題
3. 学会等名 日仏哲学会春季・秋季合同大会シンポジウム（秋季）「リズムの哲学：ソヴァネ、ベルクソン、マルディネ」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 声の肌理をどう翻訳するか　ベルクソンのコレージュ・ド・フランス講義『時間観念の歴史』翻訳について
3. 学会等名 第46回ベルクソン哲学研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 結婚の脱構築 ヘーゲル、キルケゴール、マルクス
3. 学会等名 明治大学大学院・教養デザイン研究科（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 触覚をめぐる最近の哲学的考察（デリダ、伊藤亜紗） 痒さの哲学に向けて
3. 学会等名 科研費・基盤（B）《「ポスト身体社会」における芸術・文化経験の皮膚感覚についての横断的研究》
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田純貴
2. 発表標題 皮膚の想像力と岩明均作品 可塑的なもの：プラスチックと爪
3. 学会等名 科研費・基盤（B）《「ポスト身体社会」における芸術・文化経験の皮膚感覚についての横断的研究》
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 牧口千夏
2. 発表標題 学芸員の領分
3. 学会等名 シンポジウム「タイムライン展をふりかえる 現代美術の保存・修復・記録をめぐる」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 ベルクソンの人格概念の再検討 リキエ『ベルクソンの考古学』から出発して
3. 学会等名 PBJ-DI分析系分科会
4. 発表年 2019年～2020年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 The range of the voice: Towards a Bergsonian theory of Personality
3. 学会等名 "Remembering: Analytic and Bergsonian Perspectives" (Franco-Japanese workshop)
4. 発表年 2019年～2020年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 藤田 尚志	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 624
3. 書名 ベルクソン 反時代的哲学	

1. 著者名 季村敏夫、高木彬	4. 発行年 2022年
2. 出版社 思潮社	5. 総ページ数 208
3. 書名 一九二〇年代モダニズム詩集 稲垣足穂と竹中郁その周辺	

1. 著者名 平芳幸浩	4. 発行年 2023年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 264
3. 書名 現代の皮膚感覚をさぐる	

1. 著者名 平芳幸浩	4. 発行年 2021年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 348
3. 書名 日本現代美術とマルセル・デュシャン	

1. 著者名 平芳幸浩、三木順子、井戸美里	4. 発行年 2021年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 384
3. 書名 芸術の価値創造	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	若林 雅哉 (Wakabayashi Masaya) (30372600)	関西大学・文学部・教授 (34416)	
研究分担者	池側 隆之 (Ikegawa Takayuki) (30452212)	関西学院大学・総合政策学部・教授 (34504)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平芳 裕子 (Hirayoshi Hiroko) (50362752)	神戸大学・人間発達環境学研究所・准教授 (14501)	
研究分担者	高木 彬 (Takagi Akira) (50767548)	龍谷大学・文学部・講師 (34316)	
研究分担者	藤田 尚志 (Fujita Hisashi) (80552207)	九州産業大学・国際文化学部・教授 (37102)	
研究分担者	牧口 千夏 (Makiguchi Chinatsu) (90443465)	独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館・学芸課・主任 研究員 (84302)	
研究分担者	太田 純貴 (Ota Yoshitaka) (90757957)	鹿児島大学・法文教育学域法文学系・准教授 (17701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関